

UIFA JAPON NEWSLETTER

■主な内容

- UIFA第10回大会に参加して
- UIFA第10回大会 会議の概要
- UIFA第10回大会 会議後のツアー
- UIFA JAPON 第1回総会・記念講演会
- 第1回海外交流の会
- 本年度事業計画
- 役員会の報告

■特集 第1回UIFA JAPON総会・記念講演会に出席して“ひと言”

■UIFA第10回大会に参加して



UIFA JAPON会長
中原 暢子

今回はUIFA設立から30年、第10回の記念すべき世界大会でした。開催地は南アフリカのケープタウン、1993年3月14日～19日までが会議・レクチャー・今後の方針などを話し合う会議、20日～29日がツアーという日程でした。参加国は約20ヶ国、80人と前回までに比べてぐっと小型でした。日本からはUIFA JAPONを設立したこともあり、理事3人を含む6人が参加しました。開会式にはデ・クラーク大統領夫人、UIAプレジデントのオルフェミ氏、UIFA会長のドラトゥールさんをお招きして今回の立役者、南アフリカ女性建築家協会会長ケルダさんの司会で進行了ました。開催地はケープタウンの中でもウォーターフロントという隔離されたリゾート地、会議場も昔の船のドックのままの非常に地味な所でした。会議場の飾り付けはUIFAの旗40枚を正面に飾った以外に特に目

立つものもありませんでした。しかし同時通訳とか、OHP、スライド、ビデオなどの設備は整っていました。事務局は殆ど外注のようでしたが、その人達が熱心でかなり正確だったことがこの会議を成功させた要因の1つだったと思います。とにかく政情不安定な状態での開催でしたから出席者の安全を第1に考えているのだと感心させられる一方、こじんまりとした気楽な楽しい会合でもありました。レクチャーとして、きちんと準備され内容の豊富なものが多くの人々の興味をひいたのは勿論ですが、気になったのは南アフリカの若い女性建築家の発表が多かったこと。細かい点の違いはあるのですが、全体的な印象が同じように感じられたこと、そして出席者が少なくなってしまうことなど今後日本で発表する時の留意点にもなると思いました。会議後のツアーの参加者はさらに少人数になり、バス1台で座席に余裕もあるゆったりしたものでした。ここでも参加者の安全をかなり意識したようで治安の悪いヨハネスブルグにも行ってはくれましたが、危険は避けるということが優先され、もう少し南アフリカらしいところを見せて欲しかったのですが、それはかなえられずやや不満が残りました。

今回日本で会議を1997、8年に開催したいと申し出をして来たことは特筆しなければなりません。

南ア会議ではケルダさんと御主人の献身的な行動力と努力が印象的で只々敬服してしまいました。

■U I F A 第10回大会会議 会議の概要

「変貌する社会」 発展途上国の都市環境のマネージメントをテーマとするこの会議は南アの発表を中心にその数27、パネル展示3の構成でした。

現在の南アの人口3/4 を占める黒人はいまだ参政権を持たず、経済的人種格差は想像をはるかに超え、発表もこの特異な社会背景を持つ南アの都市環境計画に取り組んだものが目立ちました。かつて大学や職場では女性を締め出していた民主主義国家フランス、その差別が引き金となり組織されたU I F Aも今年30周年、その第10回大会を南アで迎えることの意義深さを強調した南ア代表Mrs. ゲルダの開会の辞が印象的でした。

アメリカのミルカ教授は、これまでの男女の性別役割分担は相互に思想的に根本的相違を産み出した。ピラミッド思考の男性に比べ水平思考の女性は裾野に広がり底辺を向上させる点については極めて優れていると女性の役割を強調。世界には西洋文化上位異文化下位に見る傾向があるが、発展途上国での都市問題解決においては、前提条件が全く異なる特殊性を指摘。その社会構造、結婚、家族、性のルール、集団の人間関係の重要性、宗教等々。スウェーデンのMrs. クンラオグは、住まいの女性環境の重要性を指摘、建物と自然との調和が新しいエコロジーとし、その解決策としての一つであるクアハウス、皆で一緒に食事を作り食べ、戸外の空間を共有し、動物を飼い、子供の世話、家の修理等一人では大変な作業を共有する方法を紹介。

ともかく、言葉の壁を越え世界中の女性建築家と一緒に会し、生活の経験を生かした仕事の情報交換を有する会議の意義は大でした。 小渡佳代子



■会議後のツアー 南アフリカ紀行

会議後のバスツアーは3/20~3/29までの長いものでした。まずケープタウンを出発しポートエリザベスまで約600kmのガーデンルートを2日間で走りました。

右に紺碧のインド洋、左に見渡す限りの手つかずの大地を眺めながらのドライブは、会議の緊張を解きほぐすに十分でした。22日早朝、ポートエリザベス空港に向かう途中、大勢の人が徒歩で出勤する光景に出会いました。広大な大地を思い思いの方角にまっすぐに歩く姿は、まさにアフリカ的でした。何も遮るものが無いのだから直進して当然なのだけれど、自分が道に沿って移動するしか歩く方法を知らないことに気づかされた思いがしました。ヨハネスブルクも首都プレトリアも危険な所なので観光はすべてバスの中からで、ホテルも郊外の安全な場所であって、なおかつ高い塀がめぐらされていました。23日はボスタツワナ共和国にある南ア最大のリゾート地、サン・シティに泊まりました。豪華な施設をくまなく見学した後、思い出の為にスロットマシーンをして、夜中の12時にボリビア人のルースとプールで泳ぎ、翌朝6時に屋外施設を足早に見学した時は我ながらタフだと思いました。しかし他の人はもっとタフで、ドイツ人のキャスリンはもうプールで泳いでいたし、ドラトゥールさんはカメラ片手に芝生を走り回る鳥を走りながら撮っていました。

この旅行によって、他の国の人と身近にコミュニケーションを持てたことは最大の収穫でした。又、クルーガー国立公園で動物をライブで見ることが出来たことも大きな感激でした。 佐藤久美子



特集 UIFA JAPON 第1回総会・記念講演会に出席して“ひと言”

■男女雇用機会均等法に関わった赤松先生が何を話して下さるか興味をもって参加した。均等法が母性保護を優先させた労働法とのせめぎあいの結果という事も分かり、「男女差別」と突き放さずに「性差」を十分認識する事も必要と考えさせられた。21世紀は国際化と女の時代ともいわれ、労働力としても勿論、仕事も国際化してくる事と重ね合わせても、参加者のこの会への期待が伝わってくる様なこの会の存在の重要性を益々感じられた会だった。

(株)生活構造研究所 小池 和子



■各々の方々が仕事をされながらご多忙の中で第1回総会・記念講演会の開催に漕ぎ着けていただきましてお礼申し上げます。心もとない思いで参加させていただきましたが、コペンハーゲン大会でお会いした方々と話が弾んだり、南アの会議のスライドを見せて頂いたり氷川会館の建物にも入れたり、楽しい一時でした。閉会后、山田規久子さんのご好意で鹿島K Iビルや赤坂界隈をご紹介頂き、余り東京の町並みを知らない私にとって有意義な一日でした。願わくば他府県よりの参加者のために見ておいたら良いと思われる建物等の地図一枚でも頂ければ有り難いのですが。今後ともご指導よろしくお願ひします。

ナショナル住宅産業(株) 谷口 真知子

■懇親会の最後に、JRの車体のデザインをなさっている松本哲夫氏(剣持デザイン研究所所長・日本女子大講師)が挨拶され、「JR東日本に初めて採用された大卒技術系女性が、松本氏の事務所で一年間の研修中出産し、育児休暇取得後本人は復帰を望んでいたが

退職せざるを得なくなった。能力のある人なのに惜しい。これ社会の問題であり、会社が託児所を作るなり何等かの方策を講じなければ結局女性が子育てと両立させては働き続けることはできないのだ」というお話はとても印象深く残った。

住宅・都市整備公団 牛山 美緒

■もう1年以上前のある寒い月に、ある御縁で、女性建築家お二人と竣工したての建物の暖かいカフェテリアで待ち合わせ、その建物を御案内頂いたことがあります。お酒を飲みながら、ざっくばらんに設計についてのお話を伺い、楽しく過ごした時のことが思い出されます。後にわかったのですがそのお二人がUIFAの会員で、先日の第1回の総会にお誘い(半ば強引に)頂き、参加した次第です。私にとっては、そんな“すてきな女性”がいっぱいいる会であってほしいと願っています。勝手ですが…

(有)近藤道男建築設計室 近藤 道男



■社会的に義務と権利のない団体、言うなれば高邁な趣味の世界のUIFA。遅くなったかな思って駆けつけたが、開会5分前。思いの他空席、懇親会の始まる頃にはほぼ満席だったが。短期間にこれだけの組織作りをしこの会を実現させている先輩諸姉のUIFAにかけ熱い思いに敬意を表します。唯一人で参加していた私の若い友人が“とにかく入会したけど何があるんでしょうね”と言っていた言葉。これまでUIFAを経験していない若い世代に、この会として今後どういう出力をしていくのか“身内の集まり”的でない形でありたい。

住友軽金属工業(株) 高橋 和子

特集 UIFA JAPON 第1回総会・記念講演会に出席して“ひと言”

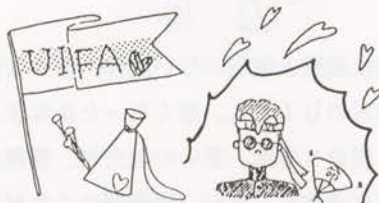
■UIFA JAPON第1回総会、記念講演会に参加させていただき、とてもいい刺激を受けることができました。参加者が時代の先端を切り開いてきた方ばかりでしたので、改めて女性の強さ、美しさを感じ、さらにこの分野での女性の地位向上のため、ただ男性に負けないためにと男性化するより、男性にない女性の魅力・パワーを育てていくことを目標に、微力ながら努力していきたいと思います。女性技術者の心の拠り所としてこれからも良きアドバイスをお願いいたします。

(株)日建設計 増淵 久乃

■私にとりまして、今回の総会及び記念講演会への参加はUIFA JAPONの存在及び活動に接する初めての機会でしたが、たいへん有意義な一時でした。まず、第一に驚いたことは会場がとても華やかだったことです。あらためて、男性ばかりのどぶネズミ色(失礼!)パーティがいかにも不自然なことかと思いついた次第です。でも、当日スピーチをされた何人かの男性のように、強力な男性応援団も今後の活動拡大には必要かと思えます。いかがなものでしょうか。

UIFA JAPON男性会員募集!

(株)日本建築センター 園田 真理子



■特別講演の赤松先生は、テレビでは同内容のお話を拝聴しております。実際ご本人にお会いできた事は、地方人としては感激の一つです。日本では8割の女性が中流以上の水準で生活できているわけですが、2割のそうでない女性と、技術援助を求める国々の女性にも目を向けて、現在自分が位置する所がどの様に成立しているかの背景を知り、グローバルな意識で物事に

取り組んでいく必要を感じています。その手掛かりになるお話もあるかと楽しみにしておりましたが、もっと「御意見話」的で欲しかった。(先生ごめんなさい) UIFAの設立目的や活動目的に、もう一步つっこんで頂きたいと思いました。何故なら、私は、UIFAに賛同して会員になったのですから。「UIFA JAPON」には期待しております。

大原一級建築士事務所 大原 志津江

■自分は今年社会人になったばかりであるが、学生時代も、そして今のところも差別をされていると感じたことはない(もっとも区別もされていないのだが)これは本当に幸せなことだと思う。先日の総会に出席し、第一線で活躍中の先輩方を拝見するにつけ、また講演を拝聴して、これも諸先輩方の努力によるものであると痛感した。それにしても総会そして懇親会での、日頃とは全く異なる男女比は壮観であった。それだけでも気概を与えられた。

(株)日建設計 須崎 稚奈

感謝



■女性だけの集まりが計画された時「何故女性だけが集まる必要があるのか?」と、熱心に討議されたのを昨日のここのように思い出します。そして10年、中原会長の挨拶の中に「今更女性だけの会か!とおっしゃる方も…」とあるのを聞いて、この10年着実に女性技術者の方々が活躍されてきたのだと実感しました。素晴らしい諸先輩方の新たな刺激を楽しみに又参加する機会を持ちたいと願っております。

巴建築設計事務所 武野 朋子

■第1回海外交流の会

MARVIN & LILLI ANN K. ROSENBERG 御夫妻を囲んで



珍しく花の期間が長く、まだお花見が出来る4月10日、UIFAの大会では顔なじみのROSENBERG御夫妻をお迎えして、「第1回海外交流の会」を行いました。

Public SpaceでのLilli Annさんの数々の作品を約120枚のスライドで紹介され、太陽や樹々や鳥、魚、貝といった自然を題材とした、明るく色彩豊かなレリーフが、駅や病院や学校等、公共性のある施設の外壁や室内の壁面を楽しく飾っていました。床面に水平に置かれたコンクリートのパネルに、小さな陶板やきれいな小石、貝殻等実に様々なものを埋め込み、その後でコンクリート面を着色するという方法でレリーフは造られていました。

Lilli Annさんの作品形成の特徴は、作品の素材の製作に一般市民が参加している、いわば市民参加型にあると言えるでしょう。壁面に埋め込まれる様々なピースを施設を利用する人々が楽しそうに製作している様子がスライドに撮されていました。

スライドの後の質問には、御夫妻でユーモア溢れる回答をして下さる等、あっという間に過ぎた楽しい2時間でした。

参加者は会員、非会員合わせて41名。通訳は会員であるキャロル マンクさんをお願いしました。

山田規久子

■UIFA JAPON 第1回総会・記念講演会

昨年6月13日発足してから約1年、去る6月12日(土)13:15よりUIFA JAPON第1回総会・記念講演会が東京赤坂の氷川会館で開催されました。小川副会長による開会の辞、中原会長の挨拶の後、役員紹介があり、現状の組織と役員の仕事分担について説明がありました。その後、議事に入り、飯島理事の進行で第1号議案：1992年度の活動と収支報告について、活動については山田理事より、収支報告は東より報告され、会計監査の安藤理事より監査の結果適法正確であることが報告されました。第2号議案：1993年度の活動と予算案についてもそれぞれ報告の後承認されました。

総会終了後14:00より記念講演に入り、(財)21世紀職業財団会長の赤松良子氏より「21世紀に向けて翔け世界の女性技術者たち」というタイトルで、雇用機会均等法成立までのいきさつや、21世紀に向けて女性の力が必要とされる必然性について講演がありました。第一線で世界的に活躍されてきた女性にじかに話をうかがうことができ意義深かったと思います。

休憩をはさんで15:30より懇親会が持たれ、来賓からの祝辞、乾杯の後、なごやかに親睦の時間を過ごしました。又、途中スライドを使っての南アフリカ大会の報告もなされ、会を盛り上げました。

出席者数70名(会員45、非会員13、招待者9、プレス3)

東 由美子



■これからのUIFA JAPON はあなたが主役です！

「とにかく参加したけれど何があるでしょう。」若い会員の声はかなり重いものです。国際交流という場をかりて何をどう伝えるか、21世紀に我々として何をすべきなのか、皆で大いに議論しましょう。(広報担当)

UIFA JAPON 事務局

〒105 東京都港区芝公園3-1-8
芝公園アネックスビル 衛生生活構造研究所内
TEL 03-3459-0221

■本年度事業計画

総会で発表し、出席の方々に御承認をいただいた“1993年度UIFA JAPON活動計画”に示されたように、本会での事業の本年度の活動の大きなテーマは“日韓交流の会開催”の企画です。UIFA第10回世界大会で、出席された韓国の代表の方から、UIFA JAPONの中原会長に、来年の秋、日韓両国の交流の会を是非開きましょう、という申し出がありました。UIFA JAPONとしても大賛成で、韓国の方々とも連絡をとりながら、来年秋の交流の会の開催をめざして計画を立てていく予定です。会員の皆様からのアイデアがお寄せいただければ、大歓迎でございます。

なお、本年度中に“海外交流の会”を今後2回、開催を予定しております。(事業担当)

1993年度 UIFA JAPON の活動計画

月別分類	経団・専任者	事業	広報・渉外	合計
活動内容	委員総会 定例会 常務委員総会	海外交流の会企画 日韓交流の会開催の 企画 特別事業の企画	ニュースレターの発行 アンケート調査 UIFA誌誌・連絡記録 との連絡	委員の会費・管理 会費の支払 役員報酬・事務局 作成
'93 4月	← 委員総会 定例会	← 第1回海外交流の 会	海外 交流の 会開催 の準備	← '93年度役員報酬 支払の作成
5月				← 役員報酬の支払
6月 12日	← 第1回 総会・記念 講演会開催		記念 講演の 準備	
7月	← 定例会 開催		アンケート 調査の 作成	委員の会費の支払
8月			← 第2回ニュースレ ター発行	役員報酬・事務局 作成
9月		← 第2回海外交流の 会	← アンケート調査の 発送	
10月		← 日韓交流の会開催の 企画	アンケート 調査の 作成	
11月				
12月				← 第3回ニュースレ ター発行
'94 1月		← 第3回海外交流の 会		
2月				
3月				← '94年度事務局 作成

■役員会の報告

92年度第3回役員会 日時：93年1月28日
場所：日本女子大図書館会議室（役員：10名出席）
UIFA第10回世界大会へは、中原会長はじめ5名が参加予定。同大会では中原会長のスピーチが予定されている他にニュースレターを会場で配付する、パネル等を作成し持参する等が決められました。

92年度第4回役員会 日時：93年2月19日
場所：日本女子大図書館会議室（役員：12名出席）
他国のUIFA参加メンバーを対象としてアンケート調査を行うことが予定されていますが、その内容について検討が行われました。

92年度第5回役員会 日時：93年3月5日
場所：生活構造研究所（役員：11名出席）
6月に行われる第1回総会について、場所は氷川会館、記念講演は赤松良子氏に依頼することが決められました。また、第10回世界大会参加者の役割分担が話し合われました。

93年度第1回役員会 日時：93年4月7日
場所：生活構造研究所（役員：12名出席）
参加者より第10回UIFA大会の報告が行われました。

93年度第2回役員会 日時：93年4月27日
場所：生活構造研究所（役員：9名出席）
第1回海外交流の会の報告が行われました。その他第1回総会までの作業及び配付資料の検討が行われました。

93年度第3回役員会 日時：93年5月12日
場所：生活構造研究所（役員：12名出席）
第1回総会準備についての話し合いが行われました。



■広報だより

第1回総会・記念講演会も盛況のうちに終わることができました。ご参加下さった皆様、ありがとうございました。

UIFA JAPONオリジナルTシャツ(¥2,500)とトレーナー(¥3,500)が出来ました。是非ご購入下さい。

ご希望の方は、事務局まで。

広報担当：飯島 渡辺 川嶋 船津 大高 緑川